

# 夢みるこども 基金だより

www.standbyyou.com/yumemirukodomo

平成19年10月16日

2007 No.12

発行：夢みるこども基金事務局  
〒810-0042  
福岡市中央区赤坂1-12-6 赤坂Sビル2F  
☎092-751-0021 (代)  
FAX 092-751-0249  
✉yumemirukodomo@standbyyou.com

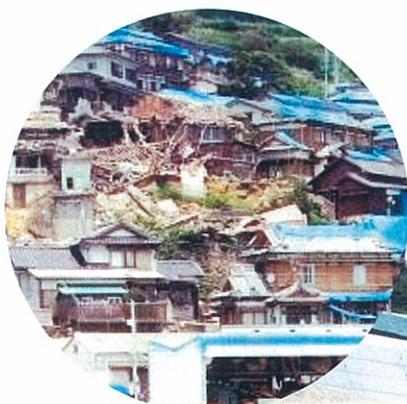
## 第13回イベント

# 『夢と希望をメロディーに乗せて～こども音楽祭～』

## 震災の復興に取り組む玄界島の慰問も

今年で13年目を迎えた夢みるこども基金の第13回イベントが8月4、5の両日行われた。初日の4日は前夜祭として福岡県宇美町の松田農園にて、2日目の午前には福岡県西方沖地震の玄界島慰問、午後は同市中央区の都久志会館の舞台での「こども音楽祭」と場所を変えて行われた。

今年のイベントのテーマは「こども音楽祭」。全国の小、中学生から「私の夢」として寄せられた作文、イラスト



震災直後の現場



震災の復興地域を視察するこどもたち

ト4540点の中から作文の部で最優秀賞に選ばれた福岡市立城南小学校5年の堀江浩司君の「声

のハーモニーを目ざして」を基にイベントが決まった。堀江君は生まれつき器官狭窄という病を持っており、発声が困難であることから、

みんなで声のハーモニーを作ること  
で心をつなぎたいという夢を作文  
に込めた。このため、「こども音楽  
祭」は歌に関するさまざまなゲス  
トを招き、多様な演出が会場全  
体で夢のハーモニーを作り上げる  
舞台となった。

参加したのは、春のこども会議  
に出席した全国からの入選者の  
うち19人。イベント前日は松田農  
園で野菜の収穫やそうめん流し、  
バーベキューで楽しみ、交流を深め  
た。また、イベント当日の午前中に  
アグネス理事と玄界島を慰問、ア  
グネス理事の歌や島のこどもたち  
との交流を通して島の人々を元  
気づけた。島の復興状況の視察も  
した。

午後1時20分から始まった「こ  
ども音楽祭」は、歌、太鼓演奏、居  
合道、マジックショーなど多彩なプ  
ログラムが4時間近くにわたって  
繰り広げられ約450人の観客で  
盛り上がった。

ファイナレはこどもたち全員が  
ステージに上がり、こども宣言「届  
け！夢と希望のハーモニー!!」と  
元気よく会場に思いを届け、基金  
のテーマソングを合唱した。基金の  
代表が「今日のこどもたちの笑顔  
を絶やさないうちにも、夢みるこ  
ども基金は来年も再来年もずつ  
とこどもたちの夢を叶えていきま  
す」と挨拶をして幕を閉じた。

# イベント当日

## 第1部 開会セレモニー

第1部の開会宣言は、イラストの部最優秀賞の福岡市立筑紫丘小学校6年佐々木友海さん。こどもによる開会宣言という初の試みが、こどもによるこどものためのイベントという主旨を感じさせた。



開会の挨拶をする中村直理事長代行

司会はFBS福岡放送の古賀ゆきひとキャスター。中村直理事長代行(福岡県歯科医師会副会長)が「13年目の今年、昨年の2.5倍の4540点もの作品が寄せられたことは夢みるこどもが増え続けているということに本当に嬉しい。夢と希望を持って生きることは大人にとっても大切であり、歯科医師も夢の応援団として社会の宝であるこどもたちをこれからも見守つ

ていきたい」と挨拶した。寄付金の目録贈呈ではネパール歯科医療協力会、福岡・ネパール児童教育振興会、バンゲラデシユ「夢みるこども基金学校」の3団体に計140万円が贈られた。続いて、基金から贈られた盲導犬はつくくん1号と2号の紹介が行われた。



はつくくん1号は4年8か月前に脇崎恵子さんに、はつくくん2号は半年前に福澤英雄さん(いずれも福岡県在住)の



アグネス・チャン理事のスピーチ

元に贈られた。2人は「はつくくんは人生の相棒。はつくくんのおかげで行動範囲も広がり、人生も明るく大きく変わった。もう彼らなしの生活は考えられない。はつくくんに出会わせてくれた基金に感謝している」とお礼を述べた。また、福澤さんは「盲導犬が手元に来るまで2年半待った。まだ視覚障害者の中で、盲導犬を待つている人たちがたくさんいる。この現状を皆さんに知って欲しい」と会場に訴えた。そして12回までのイベントをまとめ



堀江君(左端)の指揮による合唱



こども基金のこどもたちの記念撮影

たVTRが約15分間放映され、いままでのキャンペーンのあゆみをみんなで見返った。

最優秀作文朗読では、器官狭窄で発声の出来ない堀江浩司君に代わって、兄の健二郎君が作文の朗読を務めた。舞台には母・実生さんも上がり、器官狭窄の症状の説明や堀江君が生まれてからこの病とどのように付き合ってきたかを、スライド写真を流しながら話した。

また、アグネス・チャン理事の講演で



玄界島の子どもたちの力強い合唱

は、ユニセフの活動で訪れたインドの状況を子どもたちに説明し、「日本の子どもたちは全世界の中でも一番裕福な位置にいる。戦争や貧困で夢をみられない状況にいる子どもたちがいるこ



熱唱する富永裕輔さん



語りかけた。

## 第2部 子ども音楽祭

第2部は「子ども音楽祭」。

最優秀賞の堀江君が通っていた幼稚園の同級生24人による合唱だった。曲は「Believe」「思い出のアルバム」の2曲で指揮は堀江君が務めた。この日のために同級生を集め、練習に励んだという。一人の仲間のためにみんなが集い、共にハーモニーを奏するというこの

とを心に置いて、今を楽しく力いっぱい生きて欲しい」と語った。また、「人生には良いときと悪いときがある。でも、悪いときは辛いときではない。悪い状況下でも夢と希望を持つている人にとっては、それは辛いときではなく、乗り越える力を試すとき。どんな状況でも夢を持ちつづけ、前を向いて頑張つていこうという気持ちが大仕事」と夢を持つことの大切さを

光景に観客も心温まる思いで見守っていた。途中リコーダーを使うなど様々な音色が歌をさらに盛り上げ、堀江君の堂々たる指揮でステージは大成功だった。「幼稚園の同級生と一緒に声のハーモニーを作りたい」堀江君が作文に託した夢がまさに叶った瞬間だった。幼稚園時代の「初めての友達」という存在は特別でずっと心に残るものだ。そんな友達と時を経てこうしてまた集い合ったこの絆を、新たな第一歩として彼らはきっと一生忘れないだろう。

また、今回ゲストとして、福岡県出身の歌手、富永裕輔さんと兵庫県出身のアカペラグループHUMOLABA（ハモラバ）が出演した。富永さんは早稲田大学在学時にアカペラサークルに所属していて、聞く人全てを魅了するその歌唱力で7月27日にニューシングル「日向かい風に乗って」を発表。この曲は大学の同期である東国原英夫・



美しいハーモニーを披露するHUMOLABA



西南大学のチャペルクワイア

宮崎県知事の熱い要望の下、宮崎の応援歌にもなっており話題を呼んでいる。この曲の披露で、彼の迫力と伸びのあるその美しい歌声に会場は酔いしれていた。富永さんは「歌うために地元福岡に帰って来られて嬉しい。自分も頑張るのでみんなも夢を諦めず頑張つて」とエールを送った。

アカペラグループHUMOLABAは女性4人グループで兵庫県神戸市のライブハウスなどで活躍している。メンバーの一人、吉田春菜さんは第1回夢みるこどもイベントのOGでもあり、当時は姉・綾香さんと一緒に阪神大震災の遺児として参加していた。第10回のOB・OGのイベントにも参加しており、現在は音大に通いながら音楽の道

を進んでいる。今回はゲストとして神戸からメンバーと応援にかけつけてきてくれ、自作を含む3曲を披露した。こどもたちは生で聞く楽器のないアカペラの世界に吸い込まれるように聞き入っていた。自分たちの先輩に当たるイベント参加者が、自分の夢をしつかり持つて舞台上立っている姿はこどもたちの目にはどう映ったのであろうか。きつと輝いて見えたにちがいない。春菜さんは「あの当時、このイベントに参加したことが心の支えになっている時があることに気付く。また久し振りにここに帰ってきて、みんなが声をかけてくれて嬉しい。今ここに在る皆も



柳河盲学校の太鼓演奏

今日のことは絶対忘れないと思う。そして私達はこの夢をもっているこどもたちを、これからもずっと見守っていきたい」と当時の思い出とともに会場のこどもたちにメッセージを送った。

その後も、柳河盲学校の生徒による沖の石太鼓や小倉居合道倶楽部による居合道、西南学院大学チャペルクワイアの合唱、伊藤実喜医師のマジックショーなどさまざまイベントでこどもたちを楽しませた。また、玄界島のこどもたちの合唱曲「未来を旅するハーモニー」は、人気バンド「DREAMS COME TRUE」の吉田美和さんが玄界島のために作詞作曲した曲で、こどもたちは元気よく歌い、島が元気を取り戻していることを強くアピールした。



伊藤医師のマジックショー

## 今年もマスコミ8社が取材

夏のイベントは毎年、マスコミ各社に取材、報道をして頂いているが、今年も新聞が4社（読売、毎日、西日本、スポーツ報知）、歯科業界紙2社、テレビ2社に取り上げてもらいました。イベントの本番は午後1時20分から、福岡市中央区天神の都久志会館だったが、これに先がけ、「こども会議」のこどもたちとアグネス・チャン理事は午前8時50分の市営渡船で玄界島に渡った。早朝にもかかわらず玄界島にも同行取材をして頂いた。

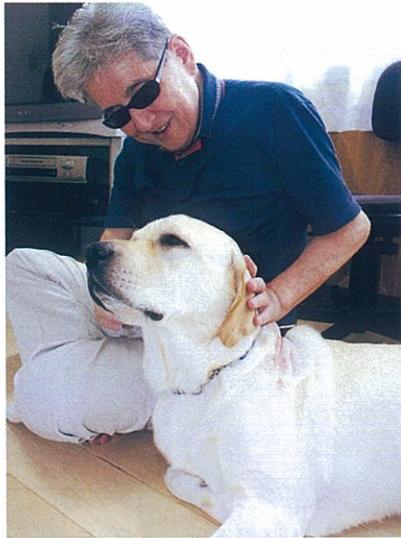


迫力ある居合道の演武

## 2頭目の盲導犬贈呈

夢みることも基金が目の不自由な人に贈る盲導犬「はつくん2号」が誕生し、夏のイベント会場で「はつくん1号」とともに紹介された。

「はつくん2号」は、通称リチャードでイエローのラブラドル・レトリバーのオス3才。プリーダー(産みの親)からパピーウォーカー(育ての親)を経て、2年前から福岡県前原市の財団法人九州盲導犬協会の訓練センターで盲



福澤さんに寄り添うはつくん2号

導犬として様々な訓練を積み、今年1月にユーザーの福岡市中央区薬院の福澤英雄さん(68)のパートナーとなった。



脇坂さんとはつくん1号(右)左は福澤さんとはつくん2号

り込み、はつくんとの共同生活をしながら訓練を受けた。福澤さんは「はつくんはおとなしいが茶目っ気があり、いつも私に寄り添ってくれる。念願だった買い物などに行けるようになり、新しい世界が開けたようだ」と話している。盲導犬は1頭が約180万円。基金は平成14年4月に「はつくん1号」(メス6才、通称エンジェル)を、福岡県筑紫野市天拝坂の脇崎恵子さん(45)に贈っており、脇崎さんのパートナー、そして家族の一員として活躍している。

28歳の時に眼底出血で両目を失明。会社を辞めて鍼灸師の資格を取り、妻の陽子さんと鍼灸院を経営してきた。陽子さんも弱視で福澤さんの介助が十分にできないため、3年前に同センターに盲導犬の貸与を申し込んだ。はつくんのユーザーに決まった福澤さんは同センターに4週間泊ま

盲導犬は平成19年3月現在、全国に965頭(うち九州盲導犬協会は50頭)いるが、盲導犬ユーザーを希望している人は約7800人。盲導犬は目の不自由な人を介助するため、適格条件が厳しく、10頭の子犬のうち盲導犬になれるのは3〜4頭。九州盲導犬協会は年間12〜13頭の育成を目指しているが最

近は10頭を下回るが多い。基金も平成16年度に180万円の助成金を計上しているが、盲導犬が決まらなかった。中村博文同協会事務局長は「盲導犬の育成は多くの人の寄付に頼っており、夢みることも基金に感謝している。盲導犬を待つという人たちの願いをかなえるために、さらに多くの人たちのご支援をお願いしたい」と話している。



福澤さんと散歩に出掛けるはつくん

## 震災孤児の綾香さんがテレビの特集番組に



綾香さん一家(NHKテレビから)

平成7年7月に熊本県阿蘇で開いた夢みることも基金の第1回イベント「阿蘇子ども出会いの里」に参加した阪神淡路大震災の遺児の兵庫県尼崎市の川口(旧姓吉田)綾香さん(24)を取り上げたNHKの特集番組が9月17日に放映された。

番組は午後10時から50分間放送のNHKスペシャル「にっぽん家族の肖像(震災孤児が母になる日)」。綾香さんは震災で自宅がつぶれて両親はタンスの下敷きになって死亡。綾香さんと妹の春菜さん(21)は奇跡的に助かった。綾香さんと春菜さんは他の震災孤児と一緒に夢みることも基金のイベントに参加し、子ども基金の子どもたちと阿蘇でホームステイをしながら地元の子どもたちも加わり、2泊3日の日程で交流を深めた。当時中学1年だった綾香さんと小学3年の春菜さんは祖母宅で育てられた。テレビの特集番組は2組の震災遺児の12年間を追跡しながら「命とは何か」を考えるもの。

綾香さんは「あしなが育英会」で知り合った川口和徳さん(22)と結婚、6月8日に長女を出産した。出産するまでは「両親を早く亡くしたので幸せな家族のイメージがわからない」「家族とは他人の塊だ」と言っていた。震災で負った心の傷が綾香さんを苦しめて来たのだろう。ところが長女を産んだ直後、産室から綾香さんの絶叫が響いて来た。「パパとママに会いたい」「パパとママの所へ行きたい」。新しい命を授かったことで、それまで胸の奥に封印して生き続けて来た綾香さんの命の尊さと両親への思いが一気にはじけたのだと思う。長女にはいつも明るく笑顔を決やさない娘に育つように、との願いを込めて「日向」と命名した。春菜さんも加えた綾香さん一家の幸せをお祈りします。



日向ちゃんを抱く綾香さん(NHKテレビから)



「はつくん」は歯とこどものはつらつさをイメージした基金のシンボルマーク。盲導犬の愛称もこれから名付けられた。

## 玄界島慰問

2年半前の福岡県西方沖地震の被災地玄界島への慰問は、イベント当日の8月5日午前中にアグネス理事とこども会議メンバー、スタッフで玄界島を訪れた。玄界島にとってアグネス理事は島の親善大使としても浸透しており、活力剤となっている。

到着と同時に島には歓声がわき起こった。そのあと玄界島公民館で交流会が行われた。はじめに、玄界小6年の杉野也実君が「今まで、夢みることも基金の方々からたくさんのお金をもらって、アグネス理事のおかげで元気がもたらされて、また「昨年、アグネスさんが体調を崩されたときは、島みんな心配し、何か出来ることはないかと話し合い、メッセージを送った。お元気になるまで嬉しかったです」とアグネス理事に向けたコメントもあった。アグネス理事も感謝の言葉を島に届けており、イベント以外の温かい交流も伺わせた。続いて、夢みることも基金から玄界島保育



玄界島公民館で交流することもち



アグネス・チャン理事を囲む島の人たち

園、玄界小、中学校のこどもたちにも置き時計や図書カードの贈呈が行われ、玄界島からも基金のこどもたち手作りのおも

わが贈られた。アグネス理事からも復興資金として寄付金が贈られた。

その後は、地元太鼓の披露があり、力強い太鼓に基金のこどもたちは圧倒され見入っていた。またアグネス理事も歌を3曲披露し、島の人々を新たに勇気づけていた。そして、島の復興状況を皆で視察した。初めて目の当たりにする復興現場を見上げるこどもたち。「早く島が完全に元気になるように」とみんなでエールを送った。

## 前夜祭

イベント前夜祭は8月4日(土)、福岡県宇美町の松田農園で行われた。松田農園は、これまでのイベントの中でも野菜の収穫をしたり、歌や踊りなど、こどもたちの交流の場となってきた。今回も真夏に広がる青空の下、野菜の収穫、そいうめん流しなど、こどもたちを楽しませた。

野菜の収穫では無農薬のトマトやナスがたくさん採れ、こどもたちは両手に野菜を抱えながら



竹馬乗りに挑戦

学校とも違う、第3の場所。ここでこどもたちはいつもとは違う自分を見つけ、居場所を見つけ、新たな事に挑戦し、新たな友情を作り出す。最初ははじめずい

「ほら！見て！」と嬉しそうに自分の採った野菜の大きさを自慢しあっていた。スーパードに並ぶ野菜とは違い形や見た目はよくないが、天然の野菜のおいしさを十分に引き出した無農薬の魅力をこどもたちは身をもって感じたようだった。また、山の探検では昆虫採集をしたり、木々にもぐりこむカブトムシの巣を見つけて興奮したりとさまざまに自然を体感していた。

山の探検が終わったあとは、夏の風物詩「そいうめん流し」。全長10m近い竹で作ったそいうめん流しは、なかなか家で体験できるものではない。そいうめん流しを初めて体験する子も多く、皆流れてくるそいうめんに興奮しながらも、我先にと箸で奪い合う姿が周りの笑いを誘った。「もつともつと！」「おいしいー！」猛暑の大自然の中、汗を流しながらの冷たいそいうめんはまた格別の味の上だった。



山中でのカブ虫探し

た子も自然と笑顔があふれ出している。竹馬が壊れても笑い、誰かが転んでも笑う。転んだ子も笑い出す。この絵がいい。ゲームや漫画などで家にもある遊びが多い中、こんなふうには大自然の中、竹馬や竹とんぼで遊ぶ時間を得られたことはこどもたちにとっても大きな意味あることだったのでないだろうか。

この時のこどもたちの笑顔は作られたものではなく、内からしみ出すこども本来の笑顔だ。この笑顔を見た瞬間、わたしたちは本当にこのイベントを開いて良かったと実感する時でもある。

夕刻時に、アグネス理事も松田農園に到着した。周囲も沸き上がり、アグネス理事もこどもに混じり、裸足で竹馬乗りに挑戦したり、そいうめん流しを楽しんだ。遊びを通じてのアグネス理事とこどもたちとの交流が、互いの心の触れ合いをもたらし、これが毎回のイベントの大きな柱となっている。

この後は、バーベキューで皆お腹も膨れ、夕暮れの中、地元太鼓の力強い演奏に沸いたり、神戸アカペラグループHUMOLABの歌に聞き入ったりと前夜祭を思いっきり楽しんだ。



そいうめん流しを楽しむこどもたち

## 声のハーモニーは心のハーモニー



私たちの小さな夢がたくさんの人々の協力で大きくふくらみ、今日全国のこどもたちが福岡に集い、第13回夢みるこどもキャンペーンイベント「夢と希望をメロディーに乗せて～こども音楽祭～」を開きました。全国から集まったこども会議のメンバーは、ほとんどが初めての出会いでしたが、流れ出るメロディーに乗せて、心のままに歌い、リズムに合わ

せて体を動かしているうちに、自然とお互いの心の壁が取り払われていくのを感じました。音楽を通じて心のつながりを感じあえたのです。ふと気付けば、私たちが目指した声のハーモニーはお互いの心が通じ合うことで、既に出て上がっていました。声のハーモニーとは心のハーモニーでもあったのです。みんなの心が一つになること。これこそが今回私たちが探し求めていたものでした。

一人一人が持っている音色は違います。音色とは個性です。一人、また一人と仲間とのつながりが増えていくたびに その音域は広がり、調和することで深みと美しさも増し、今までとは全く違った新しい音の世界が開けました。

人生も同じです。一人一人、生き方も考え方も異なりますが、大事なものは、お互いを尊重しながら互いの違いを認め、分かち合う心を持つことです。そして様々な人との出会いの中に、人との繋がりや連帯感に喜びと感動を共有し、視野を広げていくことです。

皆さん、ほんの少し、自分の心の扉を開く努力をしてみませんか？相手の音色にそっと耳を澄ませてみませんか？そうすれば、世の中の争い事や差別、そして深刻化を増すいじめもきっとなくなるはずですよ。

近年、深刻ないじめ問題が後を絶ちません。学校へ行きたくても、行けない状況にいるお友達がいます。学校に行くことが辛いというお友達がいます。これは本当に悲しいことです。もし、みんなが「互いを認め分かち合う心」を持っていたならば、いじめは起こらないはずですよ。

目を閉じると、私たちが奏でたあの音色が聞こえてきます。これは私たちの友情の証です。音楽は時には感動を、時には勇気を、そして時には明日への一歩を踏み出す大きな力をもたらしてくれます。今日、ここにいるすべての人との出会いに感謝し、音楽を通じて得た心の輪を胸に、まっすぐ夢へ向かって突き進んでいきたいと思えます。

私たちが築き上げたこのハーモニーが世界中に響き渡ることを願って。

届け！夢と希望のハーモニー！！

平成19年8月5日

第13回 夢みるこどもキャンペーン  
「夢と希望をメロディーに乗せて～こども音楽祭～」参加者一同

# 作文、絵の応募過去最多の4540点 夏のイベント決まる



## 第13回 こども会議

## 活発な意見が飛び交う

夏にどんなイベントを行うかを決める夢みるこども基金の第13回こども会議が4月1日、福岡市中央区天神のアクロス福岡で開かれた。

基金が全国の小、中学生から募った「わたしのかなえない夢」をテーマにした作文・絵の応募者4,540人の中から選ばれた上位入賞者26人と保護者、基金関係者、一般市民約150人が参加した。

中村直理事長代行（福岡県歯科医師会副会長）が「全国のこどもたちから寄せられた作文・絵が昨年の2・5倍に増え、キャンペーンが広がっていることを示しており嬉しい。夏のイベントがともも楽しみだ」と挨拶した。

古市悟常任理事・事務局長（元スポーツ報知西部本社取締役編集部長）が作文について、平松暁実行委員（グラフィックデザイナー）が絵について審査結果を説明した。作品にはこどもたちの夢と希望がいっぱい詰まっており、どれも甲乙付け難く、採点に頭を痛めたという。今回は地球温暖化などの環境問題やいじめ、自殺を踏まえた「命」の尊さを訴える作品が目立った。

入賞者の表彰の後、作文の部で最優秀賞になった福岡市立城南小4年の堀江浩司君と絵の部で最優秀賞になった同市立筑紫丘小5年の佐々木友海さんが作品を披露した。堀江君は器官狭窄でほとんど声が出ないために、2才上の兄が作文を代読した。

このあと、アグネス・チャン理事と古市

事務局長がコーディネーターになって夏のイベントの内容を決めるこども会議に入った。こどもたちは、自分が作文や絵に込めた「夢」について目を輝かせながら意見を述べた。様々な意見が出たが、堀江君の「声が出ないけど友だちと歌を歌いたい」という作文を基に「こども音楽祭」を開くことを決めた。イベントにはハンデを抱えた人たちが震災地の福岡市・玄界島のこどもたちも招くことになった。

また、基金が目の不自由な人たちに贈る2頭目の首導犬「はっくん2号」の贈呈式も行われた。

中村理事長代行が、財団法人九州盲導犬協会を介して福岡市中央区薬院の福澤英雄さん（68）に「はっくん2号」を手渡し、福澤さんが「念願のパートナーを得られて心強い限りです」とお礼を述べた。

◆ 応募総数 4540点  
（作文 3058点・絵 1482点）

◆ 入賞の内訳

▽ 最優秀賞 1      ▽ 優秀賞 3

▽ 特選 10      ▽ 入選 20

▽ 佳作 201

〔絵〕

▽ 最優秀賞 1      ▽ 優秀賞 2

▽ 特選 6      ▽ 入選 15

▽ 佳作 88

# 第13回「わたしのかなえたい夢」最優秀作品

## 作文の部・最優秀賞

声のハーモニーを目ざして

福岡県 城南小学校4年  
堀江 浩司

「浩司君、大きくなったわね。それが昨日ね、先生も今日のたけくらべ会が楽しみで、久しぶりに卒業アルバムを引っ張り出して見たのよ。そしたら、浩司君が『音楽発表会でみんなと心は一つに出来たけ



浩司君(右)の作文を朗読する兄の健一郎君(左は母実生さん)

れど、いつか合唱したい』と書いてあったのよ」と、園長先生はぼくの冷たい手をさすりながら話を続けた。「昨日のことのように覚えてるわ。お母さんが、ヨチヨチ歩きの浩司君の手を引いて、この坂道を登ってやって来た日の事を」。

三才になつてようやく歩くようになって、つたばく、その上気管切開をしている事で、受け入れてもらえる幼稚園がなくて、母がとても苦労した事は聞いていた。同窓

会へ行く度に、ぼくの声をいつか聞きたいと、みんなが応えん、はげましてくれる。昨年は、手術もした。言語訓練にも通っている。だけど、ぼくの思いがぼくの体なのになかなか通じない。ついに、幼稚園からの帰り道、ぼくは母に「ぼく、本当にしゃべれるようになるの」と言うと、母の表情が止まったように見えた。長く感じた数秒後、母の顔がスローモーションのように動き出し、「病院の先生も、浩ちゃんの努力次第で発声できるつて言ってたでしょ」という重い言葉が返ってきた。

それから数秒後、ぼくは障害者センターに通園していた時の友達、陽大君に会った。陽大君はぼくを見つけると、「ほら、見て見て」

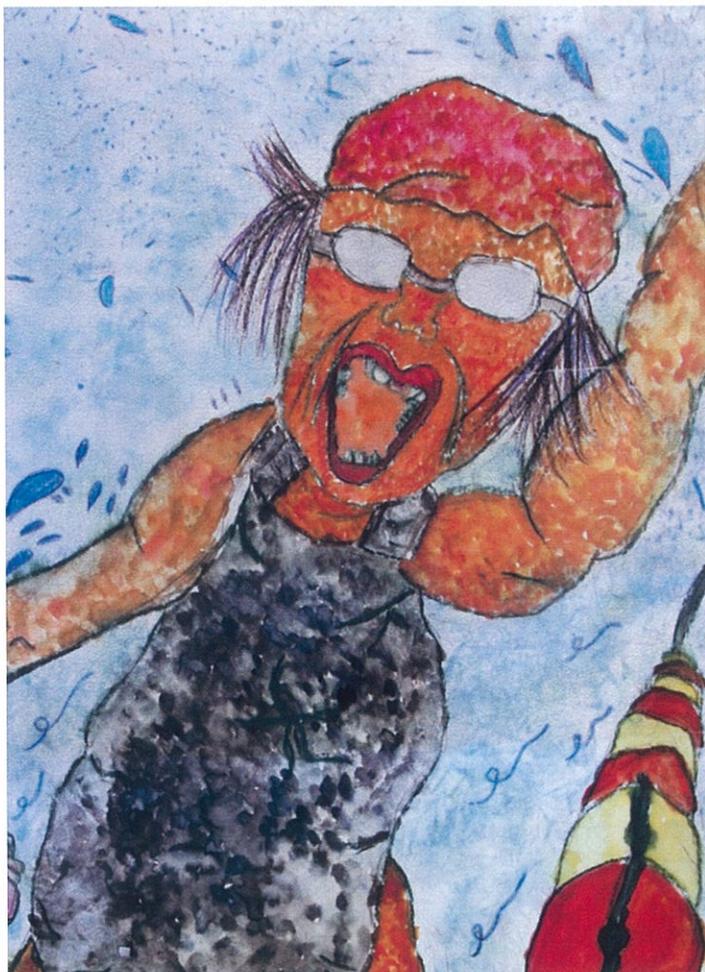
とばかりに、両手両足をふるわせ全身の力をめいっぱいふりしほつて、車イスにつかまりながら立って見せてくれた。おでこに汗を光らせる陽大君の前に、ぼくははすかしくなった。10年間の努力をおし気もなく見せてくれた陽大君に、ぼくも負けられない。卒園文集に書いたぼくのゆめをかなえるために、ぼくは、ぜったいにあきらめない！と心に決めた。

## イラストの部・最優秀賞

福岡県 筑紫丘小学校5年

佐々木 友海

「あともう少し！がんばるぞ」この絵は私が背泳ぎをしているところなんです。私は背泳ぎが苦手なので「がんばって早く泳げるようになりたい」と願って書きました。



さんかできてのしかったです。おにいさん、おねえさんたちとみんなのゆめをかなえるためにがんばりました。



協力していただき本当にありがとうございます。これからもがんばってください。

福岡・大池小学校3年 小川 和輝

たくさんの人たちに会うことができました。これからも夢にむかってがんばります。



宮城・志津川小学校4年 千賀 智史

夢実現に向けて、たくさんの勇気と力をくれてありがとう。これからももっともっと努力して、いつかみんなに夢をあたえられる人間になれたらいいなあ!

福岡・城南小学校5年 堀江 浩司

いろんな体験ができてとてもうれしく思っています。歯医者さんの手は魔法の手だよ! 歯医者さんありがとう!



沖縄・当山小学校5年 新垣 七奈

いつも歯をみてくれてありがとうございます。基金のおかげでいくつかの夢がかなう、うれしいです。これからもよろしくお願いします。



いつも優しく治療をしてくれてありがとうございます。治療中に「したい?もう少して終わるからね」という言葉がうれしかったです。

福岡・飯原小学校5年 野元 実乃里

# あ 歯 医 者 さ ん へ 感 謝 状

歯医者さんたちがいろいろな活動をされていることを知りました。貴重な体験をさせてくれてありがとうございます。

福岡・舞の里小学校6年 宮澤 潔

金属冠の寄付ありがとうございます。おかげで夢みることも基金の行事が支えられ、私たちの夢が実現されています。



熊本・本渡南小学校6年 寶 絢菜

いつも歯の治療をありがとうございます。むし歯治療のおかげで痛みをなくすことができました。これからもよろしくお願いします。



歯医者さんのおかげで貴重な体験をすることができました。夢が実現できそうだとわくわくします。本当にありがとうございました。

福岡・大牟田小学校6年 伊藤 友紀

歯は大切なものなのでいつもきちんとみがいています。これからも歯を大切にします。いつもありがとうございます。

福岡・愛宕浜小学校6年 小森 叶和子

歯磨きが苦手な私を助けて下さりありがとうございました。今では毎年検査に通っています。これからもよろしくお願いします。



福岡・雙葉中学校1年 北島 愛

福岡・筑紫丘小学校6年 佐々木 友海

歯医者さんたちのおかげで、こんなに楽しいイベントができました。ありがとうございました。



歯医者さんのご協力のおかげで、夢に向かっての活動ができます。ありがとうございました。

長崎・南部中学校1年 大石 美祝

虫歯になった時すぐに直して下さいありがとうございました。おかげで痛い思いをしなくてすみました。



福岡・直方第一中学校1年 後藤 加奈

昨年に続き入賞作品に選ばれたことをうれしく思います。今年は、被災した玄界島を訪問できて良かったです。感謝しています。

大阪・松原第三中学校1年 西川 武志

私は、この基金を通して歯医者さんの思いやりが世界に広がって行くのを実感しました。ありがとうございました。



東京・東横学園中学校2年 岡部 達美

イベントを開催することができ、私にとってとてもいい経験になりました。本当にありがとうございます。



毎年支えて下さってありがとうございます。そのおかげでたくさんの人達が救われているのですごくと思います。

福岡・安室中学校2年 堤 三太郎

歯医者さんが支えて下さるおかげで、沢山の子どもたちが夢に近づいていくことができたと思います。



埼玉・星美学園中学校2年 柳田 みずき

会議やイベントなどができるのも歯医者さんのおかげです。いい経験、そしてたくさんの友達ができました。感謝しています。



佐賀・神崎中学校3年 大島 美玲

福岡・照曜館中学校2年 宮野 真衣

歯医者さんのおかげで色々な体験ができました。とても良い思い出になりました。ありがとうございました。

福岡・鷹峰中学校3年 谷 由佳

## 歯科医から こどもたちへの メッセージ



愛知県名古屋市  
杉の子歯科  
杉山 乗也

笑って 笑って 笑って  
いつも笑顔で！  
元気な子でありますように。



福岡県福岡市  
おかべ歯科医院  
岡部 知剛

みなさんと共に「夢」を叶えていく  
ことが出来て、とても嬉しく思っ  
ています。これからもずっと応援します。



福岡県福岡市  
佐知歯科医院  
佐知 正道

激変する社会、ど  
うなる将来は。こ  
どもたちはどんな夢があるのか、夢  
を少しでも具現化出来る環境作  
りを大人もお手伝いしています。  
夢をみて下さい。夢に向かって頑  
張って下さい。



兵庫県川西市  
堀池歯科  
堀池 周司

参加してくれて、喜んでくれてあり  
がとう。みんなのありがとうに囲ま  
れていると、夢みる大人に成れそ  
うな気がしてきました。



千葉県船橋市  
武内歯科医院  
武内 洋司

君達には無限の可能性がある!!  
未来に向けて挑戦し続けて欲しい!



東京都羽村市  
森谷歯科医院  
森谷 尊文

こどもの頃見た夢。ソ  
連のスポーツニクスと  
いう人工衛星が打ち  
上げられた頃、いつかは宇宙に飛び出  
したい。今でも持ち続けています。君たち  
には、きっと実現するでしょう。しかし、決  
して忘れてはいけないことは、私たち人  
間も、ほかの生き物たちも、おなじ宇宙に  
暮らしている家族であるということ。



山口県岩国市  
大矢歯科  
大矢 弘子

シエラレオネという国を知ってい  
ますか。この国のこどもたちの夢は「大  
人になるまで生きること」。生きる  
ということをよく考えてみて下さい。

## お願い

夢みるこども基金では、今回から基金だより「歯科医からこどもたちへのメッセージ」のコーナーを設けることにしました。こどもたちの「歯医者さんありがとう」に対し協力歯科医院の先生方から励ましの言葉などを頂くものです。こども会議やイベントに参加したこどもたちは仲間との出会いに感動や喜びを実感しながら、これを支えて下さっている協力歯科医院の先生方に感謝しています。こどもたちと歯科医の先生方とのメッセージのキャッチボールでこのキャンペーンがさらに広く、深い絆に発展するものと思います。当欄に多くの方々にメッセージを寄せて頂きたいと思います。基金だよりは毎年9月か10月に発行していますので、住所、氏名、顔写真付きで50字以内のメッセージをお送り下さい。よろしくお願い致します。

## 夢みるこども基金 寄付一覧表

寄付金内容	金額	寄付金内容	金額
平成 7年 8月 24時間テレビ愛は地球を救う	300,000	平成15年10月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000
平成 9年 7月 ネパール歯科医療協会	300,000	平成15年10月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	140,411
平成10年 3月 バングラデシュ夢みるこども基金学校(学校建設費)	2,000,000	平成15年10月 イラク・アジアエキュメニカル奉仕会	300,000
平成10年 7月 ネパール歯科医療協会	300,000	平成16年 6月 バングラデシュ夢みるこども基金学校(コピー機代20万を含む)	300,119
平成11年 3月 バングラデシュ夢みるこども基金学校(学校建設補助金)	600,000	平成16年 9月 ネパール歯科医療協会	300,000
平成11年 8月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	100,000	平成16年 9月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000
平成11年 9月 ネパール歯科医療協会	300,000	平成17年 1月 新潟県中越地震	3,000,000
平成11年 9月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000	平成17年 4月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	3,000,000
平成11年12月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	103,700	平成17年 6月 スマトラ沖地震	2,000,000
平成12年10月 ネパール歯科医療協会	300,000	平成17年 8月 ネパール歯科医療協会	300,000
平成12年10月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000	平成17年 8月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000
平成13年10月 ネパール歯科医療協会	300,000	平成18年 7月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	300,006
平成13年10月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000	平成18年 7月 江田果瑠奈さん(心臓移植手術)	100,000
平成13年12月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	2,000,001	平成18年 8月 ネパール歯科医療協会	300,000
平成14年 3月 8020推進財団	2,000,000	平成18年 8月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000
平成14年 9月 ネパール歯科医療協会	300,000	平成19年 2月 九州盲導犬協会(盲導犬1頭)	1,800,000
平成14年 9月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000	平成19年 7月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	1,000,000
平成14年 9月 バングラデシュ夢みるこども基金学校	100,116	平成19年 9月 ネパール歯科医療協会	300,000
平成15年 1月 九州盲導犬協会(盲導犬1頭)	1,800,000	平成19年 9月 福岡・ネパール児童教育振興会	100,000
平成15年10月 ネパール歯科医療協会	300,000		
		合 計	25,144,353

## 寄付金

夢みるこども基金学校へ  
100万円を寄付

夢みるこども基金は、こどもたちの夢の実現という本来の目的の他に、バングラデシュの「夢みるこども基金学校」への支援、盲導犬の購入資金、地震被災地への義援金など海外を含めてこどもを対象にした福祉、教育関係事業などへの支援も続けています。

基金財政が少しくなっています。今年度も「夢みるこども基金学校」へ100万円、ネパール歯科医療協会へ30万円、NPO法人福岡・ネパール児童教育振興会へ10万円を寄付しました。特に夢みるこども基金学校は1999年(平成11年)に基金から贈られた200万円の資金で小学校を開校。基金はその後毎年支援を続けており、2003年(同15年)には中学校、昨年は高校を開校して現在613人が学んでいます。こどもたちは「基金から応援を頂いて勉強が出来ます。私たちの未来は明るい」と話しています。

バングラデシュ国内でも注目される学校に成長しており、将来は大学の開設も計画しています。基金も「新しいバングラデシュ建設の人材がこの学校から誕生する」と期待し、基金の海外活動のシンボルとして位置付けて支援を続けることにしています。

## バングラデシュ「夢みる子ども基金学校」

日本側責任者 ラフマン・モクレスール



夢みる子ども基金学校の高校生

### <現 状>

夢みる子ども基金学校は、開設からわずか7年間で小学校から高校まで次々とオープンしました。生徒数も増加（現在613名）、学業成績（公的試験の結果は地域で第一位）、課外活動（弁論大会で全国優勝）の成果も順調で、有能な人材を養成する本来の目的に近づいているような気がします。

今年8月18日から25日まで「バングラデシュと手をつなぐ会」の8人のメンバーが現地訪問に参加しました。参加者の1人である堀哲也さんが次のように書いています。

8月21日午前8時半頃、夢みる子ども基金学校を訪問しました。校長と教員、生徒たちから歓迎を受け、職員室でのミーティングの後、校庭での朝礼を見学しました。一昨年の訪問の時と変わったところは、高校が開校したことでした。

まずは、高校訪問と高校生との交流が行われました。未完成でしょうか、1階だけしか使われていないようでした（2階は骨組みがむき出しでした）。

高校生との意見交換では、高校生からは、日本の高校生の勉強のしかた、日本の学生とバングラデシュの学生との違い、日本の文化など、いろいろな質問が出ました。私たちの回答に対して、高校生は真剣に耳を傾けていました。次に私たち訪問団から高校生たちに質問しました。将来の夢については、教員になって愛情を持って子どもたちと接したいとか、医師になって多くの命を救いたいという、足が地についた回答でした。一番印象に残ったのは、バングラデシュのどこに誇りを持っているかについての質問に対して、独立した国家であること、独立運動で300万人が命を落としたが、その人たちのおかげで今の私たちがいることなど、自国の歴史をしっかりと学んだ上での回答が出ていたことです。意見交換の後、夢みる子ども基金作品コンクール入賞者への表彰式が行われ、その後、小・中学校に移動して授業見学をしました。授業見学の後、音楽の授業をしている教室に移動して、濱さんの指導により「大きな歌」の斉唱と、濱田さん持参の浴衣試着といった、生徒たちに日本の文化に触れてもらう企画が行われました。「大きな歌」斉唱は、日本語で歌うため難しいのではと心配しましたが、成功に終わりました。浴衣試着は、時間の関係で全員に着せるわけにはいかないため、浴衣を着せる際に、興味津々で集まる生徒が多くいて、大変苦勞しました。

### <課 題>

昨年高校をオープンしたといっても、3つの教室だけです。5階建ての基礎のうえ、昨年1階の部分为建设し、毎年少しずつ増設していく予定です。今年は2階の部分完成予定でしたが予算が足りず、子ども基金からの支援金と銀行からの借入れ金でとりあえず2階の骨組みと壁を作り、教室として使います。第9学年から第12学年までここで勉強します。各学年には少なくとも3つつ教室が必要です。そのほかに図書館、事務室、職員室、実験室、保健室などが要ります。もちろん設備も要ります。これらのものをどうやってそろえるかが悩みの種です。

また質の良い学校を求めるならば、質の良い教員が必要です。学校当局が今払っている給料では優秀な人材の確保ができないのも悩みです。

あらゆる問題を前向きに捉え、ひとつひとつ解決していきたいです。シンドニ・シヨスタも真剣に考えていますが、子ども基金の関係者の方々も今までと同じようにご協力、ご支援をお願いします。基金の皆様から感謝しています。ありがとうございます。

### <絵や作文コンクールの賞状>

今年4名の子どもが作文・イラストコンクールに入賞しました。本来ならば基金の代表から賞状を渡すべきですが、代わりに「バングラデシュと手をつなぐ会」代表の二ノ坂さんが基金から預かった賞状と賞品を手渡しました。子どもたちはもちろん、先生や関係者たちはとても喜んでいました。「できれば日本の子どもたちと同じ場で賞状が欲しい」「日本の子どもたちと交流したい」という声が上がっていました。この賞状が彼らの将来の励みになり、もっと頑張る意欲が沸いてくると思います。ありがとうございました。

## ネパール 歯科医療協力会

理事長 中村 修一

2006年12月22日から2007年1月4日までにネパール20次隊を派遣しました。参加者は歯科医師9人、医師1人、研究者3人、歯科衛生士3人、学生2人、その他1人の計19人です。

現地ではネパール国ラリトプル郡の7つの歯科診療397人、12歳児むし歯検診と早期充填909人、口腔保健専門家の養成296人、フッ素洗口指導6268人、母子保健338人で合計8208人の村人と関わり歯科診療やヘルスケアを実施しました。特に今回は自立的歯科保健医療開発に重点的に取り組み成果を上げることが出来ました。ご支援を頂いた「夢みる子ども基金」に感謝します。今年度は21次隊の派遣を準備中で8月8日～17日まで3人からなる先遣隊を派遣しました。

ネパールでは延び延びになっていた総選挙が2007年11月に行われる予定です。日本でも同様ですが、政治が停滞していたのでは国勢が進展するはずがありません。しかし、治安がよくなったお陰で諸外国からの旅行者が多くなり、観光立国ネパールの本来の姿を取り戻しつつあるように感じます。

さて、ニルマルボカリ学校ですが2年保育の幼稚園、小学校、高校までの10年生まで総勢300名の生徒を収容し、特段のトラブルもなく日々の生活を送っています。ネパールの教育システムは基本的には権利教育システム（就学年齢の間、公立学校に通学できる権利がある）ですが、現実的には程遠い実態です。目下、ユエマのアドバイスを受け、改善されつつあるようですが、ニルマルボカリ学校でも衛生施設（トイレ棟）をユエマ仕様に基づき、建設に着手したところです。グラウンドの整備や中庭のガーデニングにも着手し、学校施設としては整ったものと考えております。

課題は、2009年3月の経済支援後の学校運営に関するのですが、このことは既に高校生の耳にも入っており、彼らは

「日本からの継続した援助によって、自分たちは何の心配もなく勉強することができました。しかし、後輩たちは落ち着いて勉強することができないでしょう。どうか支援を断ち切らずに継続して下さい」と言うのです。この答えは彼らの親である村の大人たちにかかっています。貧しさからの脱却を目的に2003年から進めているコーヒー栽培プロジェクトを成功させ、健全な家庭経済に導く責任はサポーターの私たちではなく、まさしく彼らに課せられたものです。

2005年にJICA草の根技術協力事業として助成を受けられたことも大きなバックアップですが、日本の複数のコーヒー業者のご協力により、一般市場にネパールコーヒーを商品化して販売する形を整えていただきました。現実にはデパートやマーケットでネパールのレギニョーコーヒーやインスタントコーヒーを簡単に買える訳です。つまり、彼らのコーヒー豆が加工され、商品化されるシステムができたという訳です。サポーターである日本サイドはこの上ない協力態勢を整えました。後は、農民の底力を期待しています。

## NPO法人・福岡ネパール児童教育振興会

理事長 篠隈 光彦

# これまでの夢のイベント

## H7.7/27~29 第1回 阿蘇子ども出会いの里

熊本県・阿蘇で開催。阪神大震災で両親を亡くした子どもたちを阿蘇に招き、ホームステイ。子ども会議の子どもたちや地元の子どもたちと大自然に触れ、交流を深めた。

## H8.7/25~27 第2回 阿蘇子どもみどり村

熊本県・阿蘇で開催。子ども会議の子どもたち、筋ジストロフィーの少年たち、阿蘇の子どもたち、関係者ら総勢約200人が参加。雄大な自然の中で交流を深めた。

## H9.7/21~22 第3回 世界の子どもと手をつなごう

福岡市・大手門会館で開催。バングラデシュのカラムディ村から先生と子どもの計3人を招き、関係者も含め総勢約150人が参加。カラムディ村に「夢みる子ども基金学校」の建設資金を贈呈した。

## H10.7/24~25 第4回 夢の放送局

福岡市・チャンネルシティ博多のサンプラザで開局。子どもたちの夢トークや、筋ジストロフィーの少年バンドによるライブが行われた。また、市内中心部をラブウォークし、バングラデシュ「夢みる子ども基金学校」の教材費のために募金を呼びかけた。

## H11.8/8~9 第5回 ケーキがつなぐ友情の輪

熊本県・南関町で開催。第1回のイベントに参加した子どもたちや、当時のホームステイ先の方々なども一緒に大きなケーキ作りに挑戦。出来上がったケーキを児童養護施設へプレゼントした。

## H12.8/6 第6回 アフリカの大地に根付け 子どもたちの願い

福岡県・宇美町の農家で開催。内戦で苦しむアフリカ・スーダンに贈る食物の種子を収穫し、ユニセフを通じて現地に送った。その後、竹馬、竹とんぼも作り、子ども全員で遊んだ。翌日、児童養護施設に贈呈した。

## H13.8.5 第7回 バリアフリーの社会を作ろう

福岡市・TNC会館で「子どもシンポジウム」を開催。バリアフリーについての子どもたちの意見をまとめ、小泉首相や行政機関に届けた。また、福岡盲導犬協会へ盲導犬1頭を寄贈した。

## H14/8.4 第8回 世界の子どもたちと交流

福岡市・ベイサイドプレイスで開催。「歌・踊り・食・遊び」を通じて国際交流をし、食の交流で一般市民から頂いた食事チケットの代金を九州大学留学生センターに寄付した。

## H15/8.3 第9回 日本の心をイラクの子どもたちへ

福岡市・アクロス福岡で開催。日本古来の遊具(竹馬、竹とんぼ、こま、折り紙、お手玉)、パッチワーク、教材費をイラクの子どもたちへ贈った。

## H16/8.1 第10回 子どもたちが結ぶ10年の夢

福岡市・アクロス福岡で開催。10回目の記念イベントとして第10回の「子ども会議」の子どもたちに、1回~9回のイベントに参加した子どもたちも加わり、総勢52名の子どもたちが参加。全員で高さ1.8m、全長12.6mの巨大な張り絵を製作した。また、福岡盲導犬協会へ2頭目の盲導犬の目録を寄贈した。

## H17/7.31 第11回 キャンペーンのふる里で 新潟・山古志、福岡・玄界島の震災地の友と交流

熊本県阿蘇・高森町で開催。子ども会議の子ども15人、新潟・山古志の子どもたち25人、福岡・玄界島の子どもたち30人、それに地元の子も加わり総勢123人の子どもたちが参加。ホームステイ、キャンプファイヤーなどで交流を深めた。また、参加できなかった山古志と玄界島の子どもたちに、木工品を手作りし贈った。

## H18/7.30 第12回 いつか笑いがモノを言う ~人生は笑顔から~

福岡市・電気ホールで開催。「笑い」をテーマにした絵本の読み聞かせやマジックショーなどを行った。また、作文の最優秀賞に選ばれた江田君の姉・果瑠奈さんがドイツで心臓移植手術を受けるための募金の応援をし、基金からも寄付金を贈った。

## H19/8.5 第13回 夢と希望をメロディーに 乗せて ~子ども音楽祭~

福岡市・都久志会館で開催。ハンデを乗り越えて夢と希望を忘れずに頑張ろうというテーマのもと、子どもたちの合唱や居合道、太鼓演奏などで盛り上がった。また、子どもたち18人とアグネス・チャン理事はイベントに先立ち、福岡県西方沖地震で被害を受けた同市・玄界島を慰問した。

## 子どもたちの夢がかなうまで

### 1 作文・イラストの募集

毎年、「わたしのかなえたい夢」をテーマに公募。対象は全国の小学生~中学2年生まで

### 2 審査

「夢みる子ども基金」理事会・実行委員会にて作文・イラストを審査し入賞者を決定

### 3 子ども会議

春休みに入賞者を招待し福岡市内で「子ども会議」を開催。夏休みに行う「夢のイベント」を決定

### 4 夢のイベント

夏休みに「子ども会議」のメンバーを招待し、夢を実現させるイベントを開催

## 協力歯科医院数 (都道府県内訳)

平成19年9月20日現在 合計1,591件

福岡	420	神奈川	58	千葉	34	茨城	16	青森	13	愛媛	9	京都	4	和歌山	3
東京	192	長崎	58	宮崎	34	岡山	16	宮城	13	岐阜	9	滋賀	4	高知	2
大分	79	兵庫	51	大阪	28	新潟	16	岩手	12	山形	9	島根	4	鳥取	2
鹿児島	70	佐賀	48	福島	28	香川	15	三重	12	長野	8	福井	4	秋田	1
熊本	64	北海道	48	沖縄	17	静岡	14	群馬	10	奈良	7	石川	3	富山	1
山口	63	埼玉	44	広島	17	愛知	13	栃木	10	山梨	5	徳島	3		

# 新理事に八尋晋策氏

## 定期理事会

夢みることも基金の平成19年度定期理事会が5月17日、福岡市中央区大名の福岡県歯科医師会館で開かれた。平成18年度の決算、19年度の予算、事業計画、役員改選などの会議案が満場一致で承認された。また、基金に対し妨害を続けてきた歯科医3人に対する刑事告訴が福岡県警に受理され、捜査が進められていることの報告があり、「基金にとって効果的な対応だった」と確認された。

理事会は、中村直理事長代行（福岡県歯科医師会副会長）が議長となり、始まった。中村理事長代行は「基金は13年目に入りましたが、考えられないようなトラブルに巻き込まれた。臨時理事会で承認を得たので法的措置を取りました。業務妨害と名誉毀損の刑事告訴は警察に受理してもらおうが難しいと言われているが、4月2日に受理され中心人物の3人の歯科医に対する捜査が始まった。刑事告訴で基金は壊滅的な打撃を避けることができた。このピンチを基金発展のチャンスに結びつけられるように皆様のご協力、ご支援をお願いしたい」と挨拶した。

議事のトップは人事案件。新理事に八尋晋策氏（元読売新聞西部本社論説委員・経済部長、常任理事と実行委員兼務）、理事退任が田中儀夫氏（元読売新聞西部本社福岡総局長、顧問に就任）、実行委員の退任が川島万里さん（日本航空インターナショナル福岡支店総務部アシスタントマネージャー）の3件の提案があり、承認された。

続いて、古市悟事務局長から平成18年度の活動報告、2頭目の盲導犬の贈呈、補綴金属回収報告があった。2頭目の盲導犬は平成16年度に180万円が予算計上されていたが、財団法人九州盲導犬協会の盲導犬育成が計画通り進まず、今年1月にやっと「はっくん2号」が誕生し、福岡市内の目の不自由な人に貸与されたことの報告があった。

補綴金属の回収は、協力歯科医院1584件のうち回収は263件で、総重量は93,834g。前年に比べ件数、重量とも大幅に落ち込んだ。一部歯科医師が基金に対する妨害を続けているため、2年続けての減少になった。17年度から金額にすると、約1000万円ずつのマイナスになっており、基金財政への影響は大きい。

平成18年度（13期）の会計について吉田雅俊顧問税理士が収支報告、貸借対照表に基づいて説明を行い、木村友則監事の「適正である」との監査報告があり承認された。平成19年度予算案（14期）も原案通り承認された。

新年度事業計画では3団体への寄付について協議が行われた。特にバングラデシュの「夢みることも基金学校」は高校の開設に伴い、校舎の増築の必要性に迫られていることから、基金財政が悪化している中で寄付額をいくらにするかで意見が交わされた。「基金学校は盲導犬と

もに基金活動のシンボルである」として事務局の原案通り100万円に決まった。中村理事長代行からも「もっと増額してあげたいと思うが…」との意見があった。

ネパール歯科医療協会には30万円、福岡・ネパール児童教育振興会には10万円と前年と同額の寄付をすることに決まった。

古市事務局長から8月5日に福岡市内で開く夏のイベントについての説明があった。作文の最優秀賞になった福岡市立城南小5年の堀江浩司君（器官狭窄でほとんど声が出ない）の「声のハーモニーを目ざして」を基に、「こども音楽祭」を開くことが「こども会議」で決まったので準備を進めている。また、イベントに先がけ、こどもたちとアグネス・チャン理事が震災の復興に取り組む、福岡市・玄界島を慰問することも明らかになった。

最後に約2年にわたり、基金に妨害を続けて来た河原英雄・元日本顎咬合学会理事ら3人に対する法的措置の第1弾として偽計業務妨害と名誉毀損容疑で福岡県警に刑事告訴をして受理され、捜査が始まったことの報告があった。各理事から「ボランティア団体として法的措置は苦渋の選択だったが、告訴して良かった」「あのまま黙っていると彼らの悪質、執拗な妨害で基金は立ち行かなくなっていたかもしれない」などの意見が出た。刑事事件として福岡県警が捜査を始めた事実を記者会見や臨時基金だよりで多くの人たちに知ってもらおうことが承認された。

また、河原元理事長らから「スライドショー」と称する書類で、基金に対して質問が出されていることへの対応についても話し合いが行われた。各理事、役員から「これまでの経緯から見ても、どんな回答をしても納得することは考えにくい」「意味がないしエンドレスになる」「彼らとの会談で、理事会としては見せないことを決めていた経理関係資料も見せたのに、それを逆手に取って質問をして来ている」「同じ質問の繰り返しなので具体的に回答する必要はない」などの意見が出された。結論としては、代理人弁護士から簡潔な回答をすることになった。



定期理事会。左端が新任の八尋晋策氏

## 定期理事会議事

- ① 役員改選
- ② 実行委員委嘱
- ③ 報告
  - ▽平成18年度活動報告
  - ▽盲導犬2頭目贈呈
  - ▽平成18年度補綴金属回収報告
- ④ 平成18年度会計決算
- ⑤ 平成18年度監査報告
- ⑥ 平成19年度予算案
- ⑦ 新年度事業計画
- ⑧ 各種団体への寄付・助成金
- ⑨ 夏のイベントについて
- ⑩ 妨害行為の3人に対する法的措置の経過報告と今後の対応について
- ⑪ その他
- ⑫ 新旧理事の挨拶

### 人事

#### 【理事・常任理事】

◇新任  
八尋 晋策（元読売新聞西部本社論説委員 経済部長）

#### 【理事】

◇退任  
田中 儀夫（元読売新聞西部本社福岡総局長）  
※顧問に就任

#### 【実行委員】

◇新任  
八尋 晋策（前記）

#### ◇退任

川島 万里（日本航空インターナショナル福岡支店総務部アシスタントマネージャー）

承認済みの人事（平成18年11月15日付）

#### 【理事長代行】

◇新任  
中村 直（福岡県歯科医師会副会長）

#### ◇退任

秋山 治夫（福岡県歯科医師会会長）  
※理事・常任理事も退任

# 河原氏ら3人に対する刑事告訴の捜査は大詰め 民事訴訟も近く提訴

## 刑事告訴

平成19年6月に発行した、基金だより臨時版でお知らせしましたように夢みることも基金は「基金に疑惑、不正がある」などとして約2年にわたり妨害を続けてきた河原英雄・元日本顎咬合学会理事長(65)(大分県佐伯市)、河津寛・同理事長(57)(東京都練馬区)、増田純(65)・同学会員(佐賀県武雄市)の3人を偽計業務妨害と名誉毀損容疑で福岡県警に刑事告訴しました。4月2日に告訴を受けた福岡県警は関係者の事情聴取の後、河原理事長ら3人の取り調べを続けており、捜査は大詰めを迎えています。今後は、福岡地方検察庁に送致される予定です。

河原理事長らは平成16年11月に「日本歯科医師会は旧橋本派への1億円献金事件で大きなダメージを受けている。歯科医療界を救うために基金の全財産、基金だよりに掲載されていた9000万円」を新潟県中越地震の被災者に拠出して欲しい」と要求して来ました。基金が臨時理事会を開いて審議し「献金問題の暗いイメージを消すために基金の全財産を出せ」というのは発想が貧困でまともに取り合う気がしない」「全財産を拠出すると基金は存続の危機に瀕する」などとして要求を認めなかったところ、この3人が中心になって様々な妨害を始めました。

「基金の運営、経理に疑惑、不正がある」と騒ぎ出し、基金の理事長や理事長代行に「大きな社会問題になる」などとして質問書や要望書を出して全経理書類の開示などを要求しました。また、不特定多数の歯科医師に呼び掛けて会合を開き、疑惑、不正があるか

のように強調しました。そして、「自分たちのシミュレーションによると、基金に数億円の不正がある」などと公然と内容虚偽の事実を摘示した文書を配布しました。

さらに、攻撃の矛先を基金の後援問題にも広げ「基金は厚労省(発足当時は厚生省)などの後援を取っていないのにウソをついてキャンペーンを進めている」と騒ぎました。

会合などには多数の人たちが参加し、基金攻撃の文書も各方面に配付しているため、妨害の事実関係ははっきりしています。彼らは騒いだ理由については「社会正義の一念から」「基金の健全な発展を願う気持ちから」と言っていますが、様々な妨害を2年にもわたり続けたことは常識ではとても考えられません。日本顎咬合学会は新たなボランティア組織を立ち上げています。捜査当局の取り調べでも、河原理事長らの妨害の狙いが焦点になりそうです。

河原理事長らが根拠や証拠もなく、一方的な情報流して騒ぐために協力歯科医院や都道府県歯科医師会など関係者の間では基金に対する不信感が広がりました。特に基金の規約で理事就任が明記されている日本歯科医師会の大久保満男会長の理事(理事長)就任と基金の協力団体からの辞退を誘発させたことが基金にとって大きなダメージになりました。

河原理事長らは協力歯科医院に対して「金風冠を出さない方がいい」と電話や手紙で呼び掛けまわっています。

## 民事訴訟

一連の妨害によって基金は大きな被害を被

りました。特に金属回収には直接的な影響が出ています。彼らが妨害を始めたのは平成16年度。17年度の回収から影響が出始め前年に比べ件数が1500件、総重量で75、199gのマイナス、18年度も前年に比べ、件数で1111件、総重量で48、287gの落ち込みでした。金額に換算すると、両年度とも約1000万円ずつの減少です。

彼らが次々と質問書などを出したり、各方面に文書を配布するため、基金はこの対応に追われ、協力歯科医院の確保など本来の業務ができず、17、18両年度で協力歯科医院が196件も減りました。

また、彼らは「理事会が正常に機能していない」などと非難する文書を理事、役員に配付したりもしました。

古市悟事務局長に対しては、ホテルで開いた会合で、事務局長が札束を横に置き不正を働いているにも関わらず理事長代行らがなぜかばつているという相関図をイラストに描き、スクリーンに映し出して個人攻撃をしました。

基金の顧問弁護士は平成17年7月に河原理事長らに「真実と異なる事実を摘示して、基金ならびにその運営に当たる理事各位の名誉を毀損したり、基金の業務を妨害することは法律に触れ、処罰の対象となり、損害賠償を命じられることになる」との警告書を出しています。

基金理事会はすでに刑事告訴に続いて民事訴訟を起こすことを決めており、代理人弁護士との間で準備を進めています。基金が受けた実害や精神的苦痛などを基に、損害賠償の請求額を決めることとなります。

## イベントの後援団体にも文書を送る 後援の保留、取り消しに発展

夢みることも基金に対して妨害を続けて来た日本顎咬合学会の河原英雄・元理事長ら3人の代理人弁護士が、基金の夏のイベントを後援して来た福岡県教育委員会などに「基金は厚労省発足時は厚生省などの後援を得てキャンペーンを行っている」としているが「これはウソだ」との文書を送っていたことが明らかになりました。

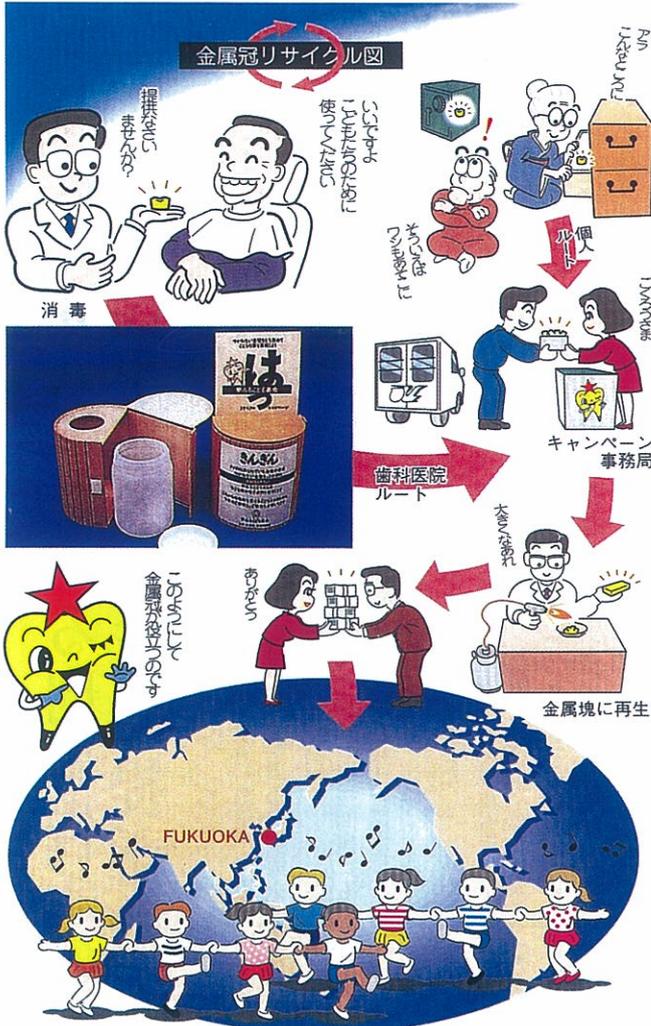
問題の文書を受け取ったのは、福岡県教委の他福岡県、福岡市、福岡市教育委員会、NHK福岡放送局。いずれも基金の夏のイベントの後援団体として基金を支援頂いています。関係者の話によると、文書は平成18年9月以降に届きました。内容は「夢みることも基金は基金が発行している基金だよりに厚労省や日本歯科技工士会、日本歯科衛生士会の後援を得てキャンペーンを行っている」としているが、後援を得ていません。また、都道府県歯科医師会の後援も北海道静岡鳥取がしていないことが判明したとされています。基金はいずれについてもキャンペーンを始めます。基金はその後後援を取っており、事実上反します。

基金が夏のイベントの準備のために、今年6月頃に福岡県教委などに後援申請をしたところ、福岡市は後援を承諾したが、福岡県、同県教委、福岡市教委からは「トラブルが起きているようなので、今回は後援を保留する」との回答がありました。またNHK福岡放送局からは後援辞退の連絡がありました。

このため、古市悟基金事務局長が保留になっていた福岡県教委などに出向き、基金の妨害を続けている河原理事長ら3人を福岡県警に刑事告訴してすでに捜査が始まっていることや、厚生省などの後援を取った経緯について「臨時基金だより」などを示して説明しました。

その結果、福岡県、同県教委、福岡市教委からこれまで通り後援承諾を得ました。しかし、後援承諾が下りたのが7月後半だったため、例年発行しているイベントのチラシ作成などは間に合いませんでした。

# 夢みるこどもキャンペーンの流れ



## いつでも受け付けています

協力歯科医院のお申込みは、随時「基金事務局」で受け付けています。入会頂くと、直ちに日通のペリカン便で、ポスター、木箱、内ボトル2個をお送りします。金属冠はこの内ボトルに入れて頂き、日通のペリカン便でボトルのみ事務局へお送り下さい。

## 日通ペリカン便はいつでも出勤OK!

金属冠の回収は年間を通して受け付けていますが、特に10月と11月を強化月間としています。少量しかたまっていなくても構いませんので、日通ペリカン便フリーダイヤル(0120-41-0202※回収箱の裏に記載)へ電話し、日通ペリカン便の方に「着払い」と伝えて渡して下さい。無料で運んでもらえます。直接、基金事務局(092-751-0021)へ電話されても結構です。

## 日通の皆さんありがとうございます。

このキャンペーンを支えて頂いているのは、全国の歯科医院などから寄せられる金属冠ですが、前述のように輸送を担当される日本通運本社、各支店のご協力も大きな力になっています。基金発足時から回収などの輸送は全額、日本通運本社が負担、全社員の皆さんにボランティアに参加頂いています。

**10月 11月** は回収月間です。  
日通フリーダイヤル(0120-41-0202)

## 業者に委託しての回収はしていません

一部の金属回収業者が、「夢みるこども基金から委託された」「夢みるこども基金と提携している」など虚偽の話をし、歯科医院などから金属冠を集めています。当基金は、提供していただく金属冠を正確、クリアにするために業者に委託しての回収は一切行っておりません。また、当基金は設立当初から「国税局」に相談、指導を受けながらキャンペーンを進めていますので、課税関係の問題が生じた時も事務局へご連絡下さい。金属冠を送って頂いた各歯科医院等については受領年月日・重量などを細かく記録していますので、対応致します。金属冠を受け取ったら「受領証」と「感謝状」をお送りしています。

## 編集後記

こんなひどいことがあつていいのか、不条理、理不尽なことが許されるのか。夢みるこども基金に対し、約2年にわたり妨害を続けて来た歯科医3人については率直な気持ちです。特に3人のうち2人はこのキャンペーンのスタート時の協力者で、私の知り合いでもありました。妨害を始めた当初は「まさか彼らが「何の目的で」と驚き、戸惑うばかりでした。

新潟中越地震の被災者に「基金の全財産を拠出せよ」との自分たちの要求が理事会で認められなかったところ、「基金の運営がおかしい」「経理に疑惑がある」「厚労省(発足時は厚生省や技工士会、衛生士会などの後援をとつていない」などと次々と信じられないような騒ぎを続けました。基金はボランティア団体ですから「トラブルは避けたい」との対応をするのが当然で、それにつけ込むようなやり方です。特に後援の件など、自分たちが設立時の協力者として関与したり、経緯をよく知っていることを、忘れたかのようにして基金攻撃の材料にして来たことにはあきれました。

経理や金属回収についても、不正や疑惑があると言いながら、証拠や根拠は出しません。その点を問い詰めると、「憶測や自分たちのシミュレーションに基づくものだ」と主張するのです。そして、自分たちは社会正義の一念から「基金の健全な発展を願う気持ちから」と言いながら、その言葉とは裏腹に信じられないことを繰り返しています。

この2年間を振り返るだけで、体が震えるほどの怒りを禁じ得ません。この3人に対応して来た日本歯科医師会の幹部が「彼らの狙いは基金をつぶすことだから、どんな対応をしても騒ぎはやめないと」とつぶやきました。その時に全てが分かったような気がしました。

私は全国紙の社会部の事件記者として、これまでいろいろな人々と接触して来ました。彼らが各方面に基金攻撃の様々な文書を流したため、基金に不信感を持った方が多く、基金は大きなダメージを受けました。そのような中で「基金を信じているから頑張れ」「不心得者に負けるな」「日歯のボランティア活動は8020運動と夢みるこども基金の2つだけ。基金をつぶしてはならない」などというたくさんの手紙や電話、メールを頂きました。私たちにとってどんなに心強く、励まされたことが言葉では言い表せません。

私たちはこのような歯科医師の先生方がいらつしやる限り、こどもの夢の実現という基金の理念、目的に向かって皆様と一緒に歩き続けたいと思います。毎年の「こども会議」や夏のイベントで、こどもたちの澄んだ目と笑顔に出会えるのを楽しみに…。これからもご協力のご支援をお願い致します。

だが、このような人物、ケースに遭遇したことはありませんでした。人間の恐ろしさを初めて知りました。

14年前に、このキャンペーンの計画を日本歯科医師会に持ち込んだ時、対応された理事の方が「歯科医師会は暗いニュースが多い。社会貢献の機会を待っていた」と喜んで下さったことを鮮明に覚えていました。

皆様も「存じの通り、この3人が騒ぎを起こした以外には、これまで一件のトラブルもなく、夢みるこども基金は歯科医師の先生方を始め多くの人たちに支えられて、こどもの夢の実現というキャンペーンを13年間続けて来ました。全国のことでも毎年、自分たちが描いた夢が実現する。このキャンペーンを楽しみにしています。今年は全国の小学生4540人から「夢」の作文(絵が寄せられ、キャンペーンが社会的にも広く定着していることを裏付けています。彼らは、何もないことで騒ぎ立て、キャンペーンを行き詰まらせようとの狙いがあるのではないかと見られていますが、捜査当局の手によってやがてはつきりすると思います。

彼らが各方面に基金攻撃の様々な文書を流したため、基金に不信感を持った方が多く、基金は大きなダメージを受けました。そのような中で「基金を信じているから頑張れ」「不心得者に負けるな」「日歯のボランティア活動は8020運動と夢みるこども基金の2つだけ。基金をつぶしてはならない」などというたくさんの手紙や電話、メールを頂きました。私たちにとってどんなに心強く、励まされたことが言葉では言い表せません。

私たちはこのような歯科医師の先生方がいらつしやる限り、こどもの夢の実現という基金の理念、目的に向かって皆様と一緒に歩き続けたいと思います。毎年の「こども会議」や夏のイベントで、こどもたちの澄んだ目と笑顔に出会えるのを楽しみに…。これからもご協力のご支援をお願い致します。

常任理事・事務局長  
古市 悟